

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター所報 5

東下野江口遺跡

— 県営かんがい排水事業 排水対策特別型社北地区に伴う調査 —

1998.3

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター所報 5

東下野江口遺跡

－ 県営かんがい排水事業 排水対策特別型社北地区に伴う調査 －

1998.3

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

序 文

本書は、県営かんがい排水事業 排水対策特別型社北地区に伴い、福井市東下野町で実施した発掘調査の報告書です。

今回の調査は、遺構としては道路状遺構が1本と寂しいものでしたが、県内では確認された例が少なく貴重な資料であります。また、太平記に出てきます安居の渡に通じる道一街道一であったとされます。安居の渡に行く道はもっと簡単な作りだったと思われましたが、このように側溝もしっかりしたものです。一乗谷朝倉氏遺跡で見つкаっている道路状遺構と比べても劣らないものでしょう。

最後になりましたが、今回の発掘調査にあたっては、福井耕地事務所をはじめ関係諸機関の皆様から、格別なご協力とご支援を、また、地元の方々には調査協力やあたたかいご配慮を賜りここに深く感謝の意を表する次第であります。

平成 10 年 3 月

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

所 長 仁 科 章

例 言

- 1 本書は、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが「県営かんがい排水事業 排水対策特別型社北地区」に伴い、平成8年4月1日～5月30日、11月1日～16日に実施した東下野江Ⅱ遺跡の発掘調査の報告書である。
- 2 調査は、福井県農林水産部福井耕地事務所の協力を得て、福井県教育庁埋蔵文化財調査センター文化財調査員青木隆佳、同嘱託國重佐夜子が担当・実施した。
- 3 本書の編集・執筆および図版作成、遺構・遺物写真は青木が行った。
- 4 本書に掲載した航空写真・全体図は、㈱バスコが行い、一部改変し用いた。
- 5 調査関係資料は、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターで保管してある。
- 6 発掘調査から本書作成に至るまで多数の方々に御協力・御指導を得た。

目 次

第1章 調査の経過

第1節 調査の経緯	1
第2節 調査の経過	1

第2章 東下野江口遺跡の地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	3

第3章 遺構と遺物

第1節 遺構	7
第2節 遺物	7

第4章 まとめ

9

図 版 目 次

図版第1 遺跡	(1) 全景(北方より)
	(2) 堤防下全景(北東方より)
図版第2 遺物	(1) 道路状遺構出土遺物
	(2) 遺構外出土遺物
	(3) 遺構外出土遺物
	(4) 遺構外出土遺物

挿 図 目 次

第1図 周囲の地形図	1
第2図 福井平野の地形図	2
第3図 東下野江口遺跡周辺の遺跡	3
第4図 全体図	4-5
第5図 道路状遺構出土遺物	7
第6図 遺構外出土遺物	8

第1章 調査の経過

第1節 調査の経緯

東下野遺跡が所在する社地区の大半は、東大寺領道守荘領内に含まれることから、圃場整備実施前に試掘調査を実施した。このときは遺構・遺物とも稀薄であり工事実施には問題がなかった。その後、圃場整備事業とは別事業であるの排水関連で本遺跡一帯を試掘調査を実施したところ、溝状の遺構と縄文時代に属すると思われる土器片が検出された。この結果を基に、福井県農林水産部耕地課、福井耕地事務所、福井県教育庁文化課、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターの4者で東下野江口遺跡の今後の対応を協議した。協議の結果、ポンプ場建設予定地域内は平成8年に発掘調査することで農林側・文化財側の両側は合意した。

第2節 調査の経過

発掘調査は平成8年3月26日から重機による表土剥ぎを開始。4月1日に作業員をいれ表土剥ぎと平



第1図 周辺の地形図 (S=1/10,000)

行して調査を行った。4月中旬まで、層位の把握に努力を注いだ。遺構は判らずにいた。しかし、土の色調に若干の差がみられたためトレンチを数本入れたところ、断面上にV字状の落ち込みが確認された。同所に堆積していた土は地山の砂質の黄褐色土がくすんだ感じであり、地山との区別は難しいものであった。トレンチ部から底部を追い掛けながら掘り進めていった。また、4月の下旬には溝状の遺構に平行して1本の地山に比べやや暗い線状のものがみえたため、同所にトレンチを数ヶ所入れた。その結果、V字状に落ち込んだ溝状の遺構になった。5月の連休明けに確認していた溝状遺構を掘り始めた。だが、2本の溝状遺構が平行にあってもそれ自体の遺構の性格が解らずにいた。そこで水野和雄次長に観てもらったところ道路状遺構ではないかと意見をもらった。以後、更に遺構がないかを確認したところ道路状遺構に直交する溝を数本確認した。

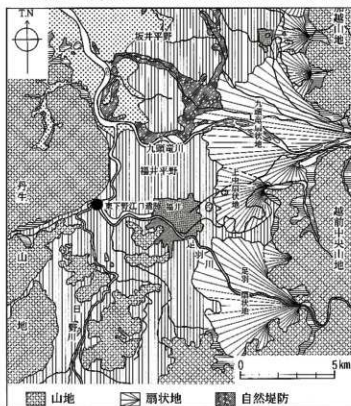
5月28日に航空測量を行い、以後、溝の肩部から縄文土器が纏まって出土した部分があったので下層確認のため深堀を数ヶ所行ったが何も検出されず5月30日に調査を中断。

11月に入り、日野川右岸堤防下の調査に入った。しかし、春に調査した西側の溝を確認したのみである。11月16日に同部分の航空測量を行い、東下野江口遺跡の調査を終了する。

第2章 東下野江口遺跡の地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

東下野江口遺跡は、福井県の北部の福井市東下野町に所在する。



第2図 福井平野の地形図

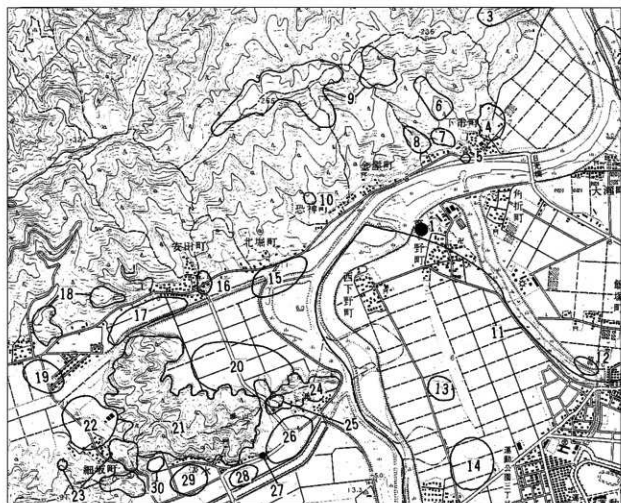
福井県は敦賀市東部の木ノ芽山地を境に嶺北・嶺南と呼び分ける場合がある。福井県嶺北地方はその四周の多くが加越・越美・丹生の各山地により鎖されており、唯一県北西端の名勝「東尋坊」周辺が日本海への開口部となっている。河川の主なものとしては、加越山地中から流出し西流する九頭龍川、越美山地中より流出し西流する足羽川、同山地中より流出し北流する日野川が挙げられる。また、平野の大部分はこれらの大河川の流域に形成された沖積平野である。福井平野は越前中央山地西側に広がり、北辺を九頭龍川で、西・南辺を丹生山地および同山地から派生した低丘腹群に画された、東西約9km、南北約11kmの区域を指す。福井平野は越前中央山地と丹生山地間に生じた、福井断層を軸とする凹地が河川物により埋積された地形である。

第2節 歴史的環境

東下野江口遺跡の所在する福井平野の西縁地域では、数多くの遺跡を確認してきた。遺跡は、沖積平野および山麓部に立地する集落遺跡や、山地・丘陵上に立地する古墳群・城跡などがある。ここでは、主な遺跡について概要を記したい。

菅谷烏帽子遺跡（第3図2） 福井市菅谷町所在。足羽川が日野川に合流する右岸の自然堤防上に位置する。平成5年～平成6年にかけ福井県埋文センターが調査を行い、弥生時代と奈良時代の遺構・遺物が検出した。弥生時代としては竪穴住居が1軒検出し、また玉作の遺物が出土している。奈良時代では掘立柱建物を7棟、井戸2基を検出した^⑩。

大瀬仙光坊館跡（第3図4） 福井市下市町所在。日野川左岸、丹生山地の東麓上に位置する。朝倉孝景の臣、大瀬仙光坊の居館とされるが、詳細は不明である。



第3図 東下野江口遺跡周辺の遺跡 (S = 1/25,000)

- | | | | |
|-------------------|-----------------|-----------------|--------------------|
| 1 東下野江口遺跡 (縄・中近) | 2 菅谷烏帽子遺跡 (弥・奈) | 3 深谷遺跡 (古・中) | 4 大瀬仙光坊館跡 (中) |
| 5 下市古墳 (古) | 6 タイコウジ寺跡 (中) | 7 安田城 (中) | 8 弥生寺跡 (中) |
| 9 金谷城 (中) | 10 恐神古墳群 (古) | 11 東大寺領遺跡 (奈) | 12 飯塚遺跡 |
| 13 東下野遺跡 | 14 久喜津遺跡 (古・奈) | 15 北郷貝塚 (縄) | 16 安田古墳群 (古) |
| 17 安田遺跡 (古・中) | 18 羽取古墳群 (古) | 19 羽取前出遺跡 (奈・平) | 20 安田城山前遺跡 (古・奈) |
| 21 横嶺山城跡 (中) | 22 細取遺跡 (奈・平) | 23 細取古墳群 (古) | 24 清水古墳群 (古) |
| 25 足高山城跡 (中) | 26 清水尻原遺跡 (縄・近) | 27 清水下谷垣内古墳 (古) | 28 清水尻原遺跡 (弥・古・中近) |
| 29 清水尻上田遺跡 (弥・古近) | 30 清水尻西谷遺跡 (中近) | | |

安居城（第3図7） 福井市金屋町所在丹生山地東縁の丘陵上に位置し、眼下には日野川と狐川（旧足羽川）の合流点を望む。「越前国城跡考」・「太平記」にも記載され、南北朝には斯波氏の臣細川出羽守が、戦国期には朝倉景健がそれぞれ居城した。

東大寺道守荘（第3図11） 福井市街西部の広範西に位置し、日野川と旧足羽川の合流点南方の沖積地に成立した、東大寺領の初期荘園遺跡である。766年（天平神護2）作成と伝えられ、正倉院に残される「越前国足羽郡道守村開田地図」により、荘園の位置などを把握し得る。昭和37年（1962）運動公園建設に伴い発掘調査を実施して以来、数次に亘る発掘調査を実施しているが、未だ明確な遺構検出には至らない。

北堀貝塚（第3図15） 福井市北堀町・恐神町所在。北堀貝塚は、大正2年（1913）に行われた末更毛川・日野川合流点の水開建設工事に発見された。その後、調査されることなく、詳細不明のまま昭和40年に日野川の浚渫工事が行われ、河床の只層の大半は破壊された。昭和59年日野川旧河道の河川改修工事が行われ、これを契機に北堀貝塚の範囲確認のための調査が昭和61年～平成2年まで実施され、範囲および性格が一応判明した⁹。

安田古墳群（第3図16） 福井市安田町所在。丹生山地東縁の標高約10mを測る低丘陵上に立地する。昭和10年（1935）県道拡幅工事中に遺物が出土し、存在が判明した。円墳2基以上が存在していたと思えるが詳細不明。

羽坂古墳群（第3図18） 福井市羽坂町所在。丹生山地東縁の標高約50mを測る丘陵上に立地。円墳（径約10m）6基で構成。

槍嶺山城跡（第3図21） 福井市安田町、丹生郡清水町清水所在。丹生山地より西方へ樹枝状に派生する通称城山山頂に立地する。平成7年から福井市教育委員会が発掘調査を行い、山城関係の遺構として郭、土橋、堅堀、柵列跡等を検出した。それ以外に弥生時代後期末の住居跡5軒を検出している⁹。

清水山古墳群（第3図24） 福井市安田町・細坂町、丹生郡清水町清水所在。槍嶺山城跡と同一丘陵上に位置し、総数23基の古墳で構成される。平成9年に福井市教育委員会が発掘調査をし、古墳は検出されなかったが山城関連遺構を確認している。

足高山城跡（第3図25） 福井市安田町、丹生郡清水町清水所在。槍嶺山城跡と同一丘陵上に位置し、通称足高山山頂に位置する。槍嶺山城の出城と思える。

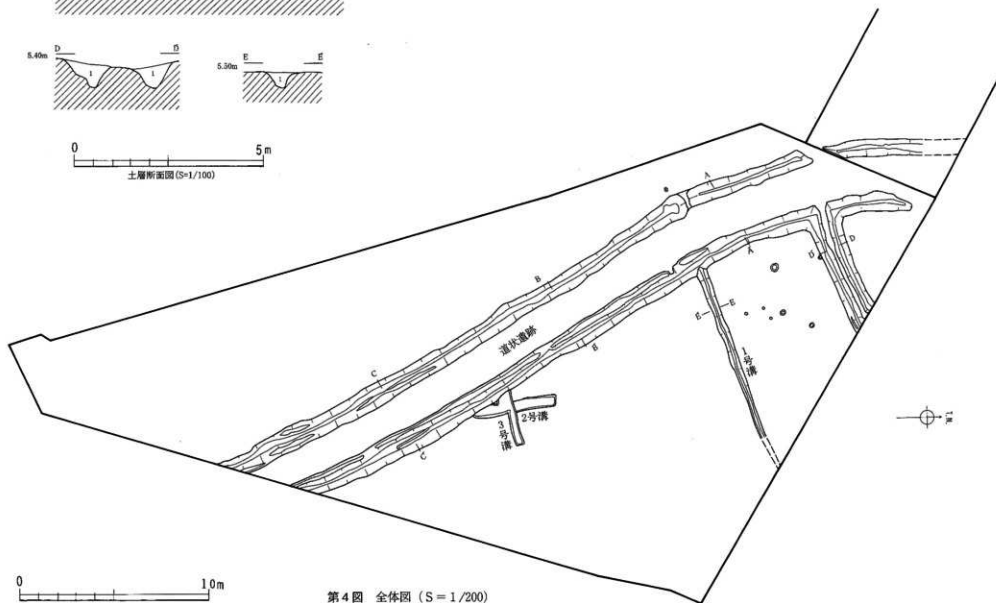
以上が福井平野西縁地域で確認する主な遺跡の概要であるが、調査例に乏しく詳細な内容の把握を今後に託す。

注1 『年報9』 1995 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

『年報10』 1996 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

注2 工藤俊樹ほか『北堀貝塚』福井県教育庁埋蔵文化財調査センター所報4 1991
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

注3 『第11回発掘調査報告会』資料 1996 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
『第12回発掘調査報告会』資料 1997 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター



第3章 遺構と遺物

第1節 遺構(第4図)

遺構としては道状遺構、溝、土坑が検出された。

道路状遺構

調査区の中央部で検出した。路面の一部で笏谷石が確認できたが、それ以外には石敷等はみられなかった。道幅は4m、溝幅は両側上端で最大1.2m、深さは南側で約2.4m、北側で約1.9mを測り北に向かって傾斜している。溝形は南部は箱状であるが北部では薬研状になっている。西側溝に土橋状のものがみられ、東側溝は途中で切れ、2本が平行する溝がその場から北東に延びている。

溝1

道路状遺構の東溝が直角に曲がり北東に向かう溝に平行するようにある。最大幅1.2m、深さ0.5mを測り、東側は昭和期まで蓮田として使われていたため不明。

溝2

道路状遺構の東側にあり南は同遺構にきられている。最大幅は0.6mで深さは0.2mを測る。

溝3

溝2に直交し、同溝を切ってつくられている。最大幅は0.15m、深さ0.2mを測る。

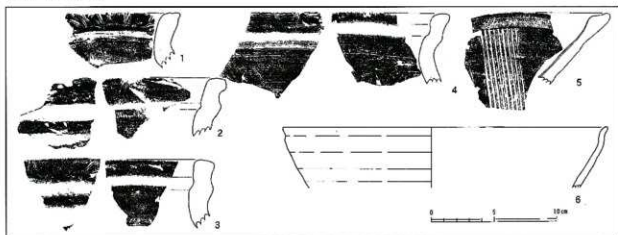
土坑

径0.4mのはほぼ円形を呈し、深さ0.2mである。遺物は出土していない。

第2節 遺物

道路状遺構出土遺物(第5図)

道路状遺構の側溝からは中世～近世にかけての陶磁器が中心に出土した。第5図1は越前焼の壺の口縁部である2～4は越前焼の甕の口縁部で、2・3は口縁部上面が平坦で、4は丸みを帯びている。時期は16世紀前半頃である。5は越前焼の掻鉢で掻目は9本である。6は唐津焼の碗であり、時期はともに17世紀である。

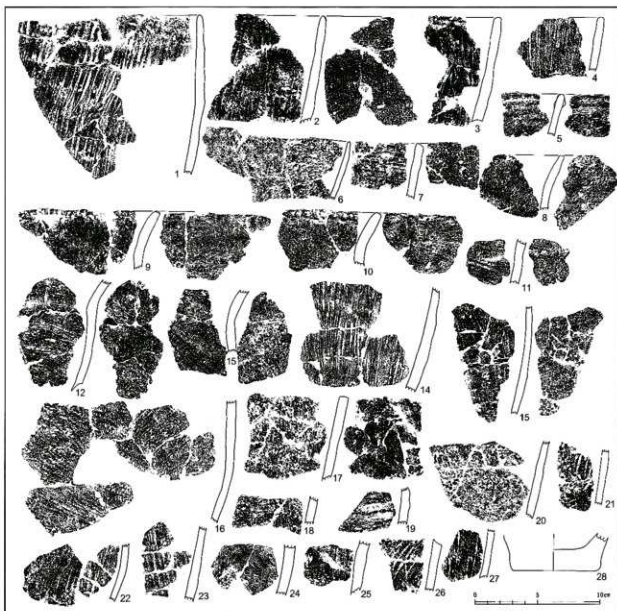


第5図 道路状遺構出土遺物 (S=1/3)

遺構外遺物（第6図）

道路状遺構の側溝を調査時に縄文土器が出土したが、全体に脆弱であった。

1～7はやや直立する口縁部である。1～4は器表面に幅2mm程の条痕がタテ方向に施されている。5は口縁端部に1条の横位の細隆帯がみられる。6は口縁部がやや尖っている。8～10は口縁部が外反するもので9・10は同一個体であり、口唇部に工具による刻みを持つ。11～27は胴部片である。11～13は頸部で括れており、口縁部が外反していくものと思われる。胴部片の大半は幅約2mmの条痕がタテまたはナナメに施されている。内面はナデによる調整がほとんどである。28は平底の底部である。



第6図 遺構外出土遺物（S=1/3）

第4章 ま と め

道路状遺構について若干の考察をしたい。

本道跡がある東下野付近には安居の渡があった。安居の渡は、旧足羽川と日野川の合流付近である東下野側と対岸の下市側を渡った。この渡は中世頃には存在しており、その後、近世になると大渡・小渡に分かれる。大渡は角折から対岸の下市へ、小渡は東下野から対岸の金谷へと渡っていた。この下市、金谷は福井と越前海岸を結ぶ蒲生街道の道筋であり、足羽川との合流地点といった陸水の交通の要地にあたる。そのため、下市と金谷の間の山麓に安居城を築き、安居の渡を押さえていたと思われる。

今回の発掘調査で検出された道路状遺構は、地理的にも安居の渡の東下野側の渡船場に通じていたものと思われる。道路上面には、笏谷石片が若干確認され、側溝も調査時点で2 m前後と深い。このことから、この道路状遺構は北国街道へ通じる重要な街道の1つであると考えられる。また、笏谷石片の残りが見つかったことから、朝倉氏が重要な渡河点と、そこに通じる道を整備したことによるものではないかと考えている。

参考文献

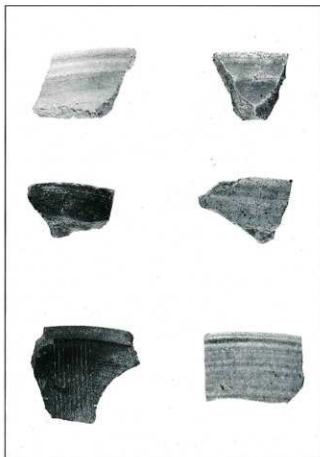
『福井市史』 1992 福井市



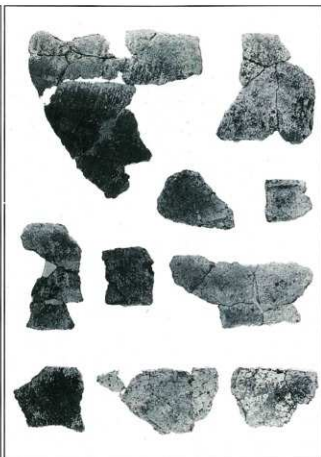
(1) 全景（北方より）



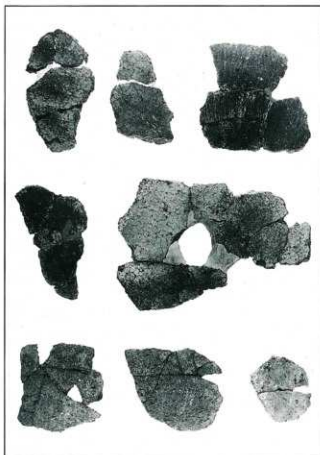
(2) 堤防下全景（北東方より）



(1) 道路状遺構出土遺物



(2) 遺構外出土遺物



(3) 遺構外出土遺物



(4) 遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ひがししものえぐちいせき							
書名	東下野江口遺跡							
副書名	県営かんがい排水事業 排水対策特別型社北地区に伴う調査							
巻次								
シリーズ名	福井県埋蔵文化財調査センター所報							
シリーズ番号	5							
編著者名	青木 隆佳							
編集機関	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒910-2154 福井県福井市安波賀町4-10 TEL 0776-41-3644							
発行年月日	西暦1998年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
ひがししものえぐち 東下野江口 遺跡	ふくいけん 福井県 ふくいし 福井市 ひがししものえぐち 東下野町	18201		36°03'57"	136°10'21"	19970401 ～0530 1997.1101 ～1116	3200㎡	県営かん がいの排水 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
東下野江口 遺跡	集落	中近世	道路状遺構		縄文土器			

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター所報 5

東下野江口遺跡

—県営かんがい排水事業 排水対策特別型北地区に伴う調査—

平成10年 3 月20日印刷

平成10年 3 月31日発行

発行 福井県教育長埋蔵文化財調査センター

〒910-2152 福井市安波賀町 4 -10

印刷 株式会社 大和印刷所

〒910-0017 福井市文京1丁目28-3
